

社長インタビュー



代表取締役社長

樋尾 和雄

各事業の強みを活かした展開で
業績回復を加速事業統合と高収益の基盤事業により、
黒字回復を達成

Q. 今年度上期の業績について概況をお聞かせください。

前期より取り組んでまいりました経営改革と事業強化策により、今年度の上期は黒字基調を回復し、新たな成長に向けて確実な一步を踏み出しました。

携帯電話と TFT 事業が事業統合により連結対象から外れ、売上高は前年同期比で減少しましたが、時計や電子辞書などは引き続き高収益を維持した結果、営業利益、経常利益、純利益は、すべて黒字となりました。

Q. 今後の事業戦略をお聞かせください。

事業統合の影響により一旦売上規模は縮小しましたが、新規事業の積極展開と、もとより優良な基盤事業の着実な拡大により、しっかりと成長軌道に乗せてまいります。

具体的には、「アートのデジタル化」を始めとした新規事業の立ち上げ、デジタルカメラ事業の強力な差別化商品の投入による利益改善、安定した利益を上げている

時計・電子辞書の海外売上拡大、システム事業の収益改善により、各事業の改善、発展を進めます。

新規事業の立ち上げと、既存事業の強化

Q. 「アートのデジタル化」とは？

これまでカシオは、電卓、時計、電子楽器、デジタルカメラなどの分野を、デジタル技術で革新してきました。そして今、挑んでいるのが、アートのデジタル化という新しいコンセプトです。

ハイスピード技術を活かして芸術的な写真を撮影するHDRアート機能を備えたデジタルカメラや、撮影した写真を絵画調に変換できるフォトプリンターなど、特別な技術がなくても、誰でも絵やアートを気軽に楽しめる画期的な提案により、新しい市場を開拓します。

画像は見るだけではなく、プリントして人に見せたり、さまざまな形で「アウトプット」してこそ楽しめるものです。お互いに連携する多彩な「アウトプット」のサービスを新規事業として立ち上げ、早期の業績貢献を目指

します。

Q. その他の事業についてはいかがでしょうか。

時計事業においては、アジアで好調なブランド「SHEEN」を国内でも下期から投入し、女性向けメタルアナログウォッチ市場での拡大を目指します。G-SHOCKは引き続き世界各地で「Shock the World」イベントを実施しブランドを強化、EDIFICEはグローバルブランドとして確立すべく展開してまいります。電子辞書はカラーフラッシュカードを活かして、中国での売上拡大を図ります。システム分野では、環境性能で差別化した水銀フリープロジェクターの拡販に注力します。

Q. 株主の皆様へ一言お願いします。

当社は今後も「ゼロから1を生む」開発精神に則り、ユーザーの潜在的なニーズに応える商品づくりに励みます。そして、商品力を最大限に活かす事業施策の推進と経営改革に努めることで、より強固な収益構造の確立に取り組んでまいります。皆様のご支援を、よろしくお願ひ申し上げます。